

(別紙5)

整理番号 2021P-116
補助事業名 2021年度 障がいのある人が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業
補助事業者名 日本のおてんかん施策の国際交流活動における評価事業

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

2021年度が、日本におけるてんかん関連活動を世界に配信する絶好の機会となる。国際会議の国内開催、東京パラリンピックの開催、そして世界てんかんの日を通じて、日本のおてんかんのある人とその家族のメッセージを発信し、国際的にも日本の取り組みを周知する。

(2) 実施内容

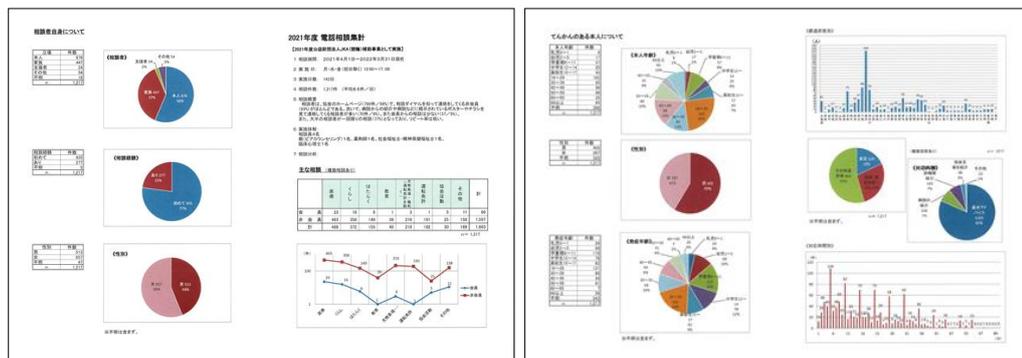
<https://www.jea-net.jp/wp-content/uploads/2023/02/671f77ddec35c518371dfcbdf8af0775-1.pdf>

① てんかん専門相談窓口の継続実施とニーズの把握

週3日、平日の午後に専門相談員による、てんかん相談ダイヤルを開設した。年間で142日開設し、1,217件の相談があった。

専門病院の紹介などの医療問題から自動車運転などの制度の説明まで、多岐にわたるてんかんを取り巻く課題について情報提供を行った。

<てんかん相談ダイヤル2021の実状>



② A O E Cへの参加と日本の実状報告

<https://www.jea-net.jp/news/10557>

第13回アジア・オセアニアてんかん学会議を、24年ぶりに日本に誘致したが、コロナ禍により1年間の延期でさらに完全オンラインの形式で、6月10日(木)～13日(日)の4日間開催した。当事者参加のシンポジウムには日本からも多くのてんかんのある本人・家族が参加して、日本の実状と課題について発表し、他国の当事者と意見交換を重ねた。日本の当事者がてんかん大使賞を受賞。同時開催のてんかんをめぐるアート展にも、多くの日本人の作品が掲示された。

(別紙5)

③東京パラリンピックでの支援と情報配信

<https://www.jea-net.jp/news/11106>

全参加選手の中で、唯一てんかんのあることを公表した藤野遼(はるか)さんを、全国から応援をした。藤野さんの所属する株式会社GA technologiesや(一社)日本パラバドミントン連盟とも連携し、オンライン応援の輪を広げた。結果は2回戦敗退ではあったが、肢体不自由とてんかんのある藤野さんの活躍は、多くの共感と勇気を与えた。

④IEDにおける国際交流

<https://www.jea-net.jp/news/12122>

毎年2月の第2月曜日を、国際てんかん協会(IBE)と国際抗てんかん連盟(ILAE)が世界てんかんの日(IED)に定めている。全国5,000万人のてんかんのある人を支援する取り組みが、全世界で行われた。国内でも、当協会(JEA)と日本てんかん学会(JES)が連携をして、記念の公開講座などを実施した。オンラインとはなったが、全国から300人の人は参加をして、てんかんの最新情報を得た。

2 予想される事業実施効果

日本でのてんかん運動が、2023年に50周年を迎える。これまで世界水準で評価を行うことが少なかったことから、今年度の積極的に国際交流を行える機会は大変価値があった。AOECを通じて日本でのてんかん施策や理解・誤解などを当事者自ら発信し、東京パラリンピックではてんかんがあることの大変さを具体的に示すことができた。こういった、世界規模の活動の中でてんかんのある人やその関係者が活躍したことで、社会の中で、新たな理解の輪が広まることが期待できる。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

世界てんかんの日2022資料集

<fb238f5529dc2462998b21516422fe23.pdf> (jea-net.jp)

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

なし



(別紙5)

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人 日本てんかん協会（ニホンテンカンキョウカイ）

住 所： 〒170-0005

東京都豊島区南大塚3-43-11 福祉財団ビル7F

代 表 者： 会長 梅本 里美（ウメモト サトミ）

担 当 部 署： 本部事務局（ホンブジムキョク）

担 当 者 名： 事務局次長 田中 明子（タナカ アキコ）

電 話 番 号： 03-3202-5661

F A X： 03-3202-7235

E - m a i l： jea@e-nami.or.jp

U R L： <https://www.jea-net.jp/>